

2019年度 早稲田大学大学院文学研究科 入学試験問題
 【修士課程】 専門科目 文化人類学 コース ※解答は別紙（縦・横書）

I. 次の文章はある人類学者によって書かれたものから一部抜粋したものである。文章をよく読み、以下の設問に答えなさい。

一九世紀のヨーロッパには二種類の他者が存在した。過去の栄華を象徴する東洋文明（オリエン特）と文明からほど遠い世界、すなわち「未開」であった。ヨーロッパ文明にのみ輝ける未来があり、東洋は過去に属す。そして未開社会は文明に到達する前の段階としてとらえられていた。東洋を研究対象としたのが東洋学（オリエンタリズム）、これに対し「未開（primitive）」あるいは「野蛮（savage）」と形容される社会を対象としたのが人類学（文化人類学、社会人類学、民族学）であった①。一九世紀の人類学の主要な関心は、人類史の再構築にあった。ヨーロッパ社会から最も遠く離れた世界を最も古い社会として位置づけ、この研究が過去の世界を知るのに有効だと考えたのである。

一九二二年は過去の再構築に関心を向けていた人類学の転機であった。その年、B・マリノフスキーの『西太平洋の遠洋航海者』②と A・R・ラドクリフ＝ブラウンの『アンダマン島民』という書物が公刊され、方法としてのフィールドワークの意義③が広く認められることになったからである。これによって、資料の収集を現地の役人や伝道師に任せ、みずからは母国でその分析に没頭するという人類学者の研究方法は大きく変わるようになる。

人類史の再構築という壮大な目的は、単なる推察にすぎないと一蹴され、フィールドワークという方法によって、実際に観察可能な資料を収集し、社会の仕組みをあきらかにすること、これが人類学のあらたな目的となった。一九三〇年代になると、アフリカを中心としたフィールドワークにもとづく人類学的研究が盛んとなる。エヴァンズ＝プリチャードがヌエル人のあいだで調査をしたものこのころである。

一九四〇年代になると、人類学のフィールドも、自給自足を前提とする小規模な未開社会から、中米や中国、インドなどの農村へと拡大していった。…（中略）…

さらに、一九七〇年代には都市人類学という名で、都市部の少数民族や民族関係を対象とする研究が増えてきた。また、それまでは歴史よりも実際に観察可能なことがらを重視してきた人類学においても、研究対象の拡大につれ文献や口頭伝承にもとづく歴史研究があらわれた。

無視されてきた女性の世界

同じころ、文化人類学は、女性への視点が欠如している、と批判されることになった。女性の人類学者が圧倒的に少ないこと、調査地（フィールド）での女性の地位の低さを額面通り受けとめてきたこと、現地で男性人類学者が女性と接するのはきわめて困難なこと、

そして何よりも人類学者の育ってきた風土が女性を蔑視し、女性たちの世界をとるに足りないものと考えていたこと、こうした理由から、人類学は女性あるいは女性を中心とする世界について十分な研究を怠ってきたというわけである。

批判の背景には欧米を中心とするフェミニズムの興隆があることは言うまでもない。それゆえ、当時の主要な問題意識は、なぜ女性の地位は低いのか、その要因は何か、どうすればその要因をとりのぞき、女性の地位向上が可能となるのか、という問いを世界的な視野に立って考察することであった。その問題意識はきわめて実践的であったが、対象や方法はあまりに一般的なものであった。

当時、家庭や産む能力との関係で女性の地位の低さが論じられる一方、公の場からみえないところで女性たちがどのような力を行使するのか——舞台裏の権力——などが論じられた。さらに、アネット・ワイナーのように、同じ地域での調査にもとづいて、男性中心の先行研究を具体的な形で批判する仕事もあらわれた。

しかし、一九八〇年代になると、「女性の人類学」が問うてきた女性の地位をめぐる問題設定の限界が指摘され、一つの社会においてさえ女性の地位を一律に決定することがきわめて困難なこと、反対に私たちが直面するのは多様な女性の生であることがあきらかとなった。

また、女性を犠牲者あるいは無力な存在とみなすだけでなく、より主体的な存在として、自分たちをとりまく敵対的な状況に対して、抵抗したり、ときには団結してこれを変革したりする姿に注目する必要があると考えられた。こうした視点は、東南アジアや南アジアの農民運動をめぐる研究成果から大きな影響を受けている。

- 設問 1 下線部①に関して、当時の「他者」研究に対し、主として1980年頃から文化人類学ではどのような議論がなされてきたか。知るところを簡潔に述べなさい。
- 設問 2 下線部②に関して、とくにマリノフスキーがクラ交易について明らかにしたことを簡潔に述べなさい。
- 設問 3 下線部③に関して、「方法としてのフィールドワークの意義」とは何か、あなた自身の考えも含め簡潔に述べなさい。
- 設問 4 ジェンダーの視点を文化人類学の研究にとりいれることの意義について、あなた自身の考えるところを簡単にまとめて論じなさい。

II. 次の問題から 2 つ選び、選んだ問題の記号を明記して文化人類学の立場から答えなさい。

- A. 観光と開発について、具体的な事例をあげて簡潔に論じなさい。
- B. 象徴論について、具体的な事例をあげて簡潔に論じなさい。
- C. ポピュリズムについて、具体的な事例をあげて簡潔に論じなさい。
- D. 伝統医療について、具体的な事例をあげて簡潔に論じなさい。
- E. 文化相対主義について、具体的な事例をあげて簡潔に論じなさい。

III. 次の用語から 3 つ選び、その記号を明記して文化人類学の立場から説明しなさい。

- A. トーテム
- B. キンドレッド
- C. エージェンシー
- D. 脱領土化
- E. リミナリティ

IV. 文化人類学コースにおいて今後どのような研究を計画しているのか、テーマおよび研究方法を具体的に述べ、主要な先行文献を書き添えなさい。句読点を含めて300字以内で記しなさい。

また、関連する卒業論文やゼミ論文(予定を含む)、既発表論文があれば、欄外にその題目を付記しなさい。外国語の場合は日本語を添えること。

Lined writing area with horizontal lines.

(次頁へ続く)

——これより先の余白には絶対に記入しないこと——

——これより先の余白には絶対に記入しないこと——

